

## 心の栄養剤No.222 『少し損をする生き方がいい』

元検事で元弁護士、田中森一さんの話は衝撃的だった。

盗みを働いた親をかばって嘘を付いた子どもを正直者と言ったり、イソップ童話の「ウサギとカメ」の物語では、「寝ていたウサギはもしかしたら具合が悪かったのかもしれない。カメは『どうしたの?』と声を掛けるべきではなかったのか。正々堂々と勝負して、負けたらそれはそれでいいじゃないか」という話もあった。こんな発想は初めて聞いた。

論語の中に貫かれている「恕」の精神を、「思いやり」という現代風という言葉に置き換えて田中氏は説いていた。

また、聖書に出てくる「人にしてもらいたいと思うことを人にしなさい」というキリストの教えを、「西洋の積極的な愛だ」と言い、それに対して孔子の「自分がされたくないことは人にするべきではない」という教えは、「控えめで、消極的であるが、これこそ東洋的な思いやりではないか」と田中氏は話していた。

そして、これまで欧米の人から欠点のように言われてきた「日本人は言いたいことを言わない」ということもまた、「和を尊ぼうとする日本人の美德ではないか」と言う。

改めて日本人の美德について考えてみた。

例えば、「**少し損をする生き方**」というのはどうだろう。これは熊本県の阿蘇で、自作農をやりながら、陶芸家として暮らしている北川八郎さんの言葉だ。

北川さんは、**人生にも商売にも「繁栄の法則がある**」と説き、その基本の一つは「**与える生き方**」と言っている。

与えるということは積極的な愛の実践だ。その生き方に徹していくと確かに人生も商売も繁栄する、と。

しかし、北川さんは同時に消極的な与え方も提案している。「**人に良きものを与えることができない人は少し損をして生きてゆくといい**」と。

例えば、駐車場に車を駐めるとき、建物の近くのスペースは高齢者や小さな子どもがいる人に譲るために自分はわざわざ遠くのスペースに駐める。スーパーで食料品を買うとき、みんなが日付の新しいものを買うと古いものが売れ残り、廃棄処分されてしまうので、わざわざ賞味期限の近いものを買う。

商売でも、利益優先だと最小限のサービスしか考えないが、少し損をしてでもお客様の笑顔を第一に考えていたら、きっとお客様に支持され繁盛店になるに違いない。

「少し損をする生き方をしていくと対立と競争から抜け出し、生きていくことが楽になります」と北川さん。

**控えめで、消極的な、少し損をする生き方を積極的に選んでみるというのは、極めて日本人の美德に適っているのではないだろうか。**

孔子の数ある教え～教訓の中で、一番腑に落ちて感銘を受けたのが「恕」の教えで、10年程前「倉光家」のお墓を建てた時に、墓石にも「恕」の文字を刻ませて頂きました。その心は、何十年も先のまだ見ぬ私の子孫の誰かが、墓参りにでも来た時に「恕」の精神、「自分にされたくない事は人にしてはならない」を伝える事ができたらいいなあという思いからです。

PS：何かと出会や別れ、そして旅立ちの春です。

新しい環境での生活が始まる方も多いと思いますが、是非「恕」の精神を心に刻んでの素晴らしいスタートを切られる事を願い、お推めしします！

くすりのキュート 倉光 浩城

※ご相談がございましたら、いつでもお電話くださいませ😊

TEL (090-8357-2904)

